2013年10月16日

私立大学図書館協会
国際図書館協力委員会
委員長 金 東瀅 様

広島工業大学附属図書館　長屋 由美子

2013年度私立大学図書館協会海外認定研修報告書

2013年6月26日（水）から7月3日（水）まで、米国の私立大学3校の図書館を訪問いたしましたので、別紙のとおりご報告いたします。

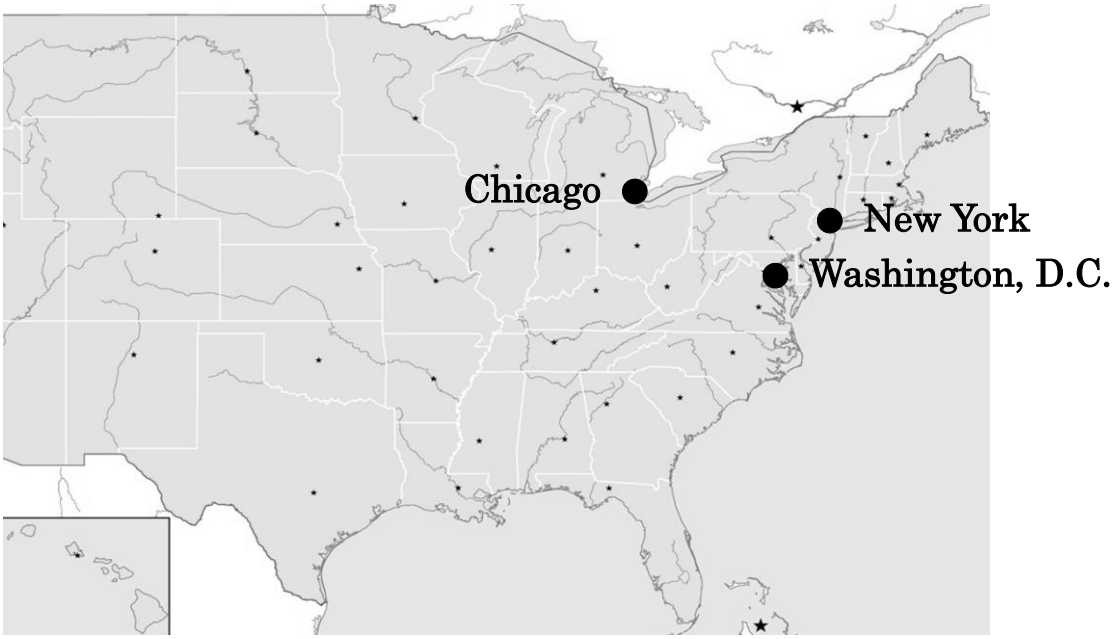
今回の視察は、丸善株式会社の「米国図書館研修」に一般参加として同行させていただき実現したものです。当該研修の参加者は、丸善株式会社職員 10 名（委託スタッフおよび現地スタッフ含む）、私立大学図書館員 3 名、国立大学図書館員 1 名、大学教員 1 名、その他一般参加 1 名の計 16 名での研修でした。

Ⅰ研修概要

1.研修テーマ

米国図書館のラーニング・コモンズ、インフォメーション・コモンズ等の最新の施設や設備を視察するとともに、現地スタッフとの情報交換を通し先進的な図書館の取り組みを学ぶ。

2.訪問先および日程



●Chicago

シカゴ大学、シカゴ美術館、シカゴ公共図書館、ALA

●Washington,D.C.

米国議会図書館、スミソニアン博物館（航空宇宙博物館）

●New York

メトロポリタン美術館、ニューヨーク公共図書館、コロンビア大学、イエール大学

2013 年 6 月 26 日～7 月 3 日（8 日間）

6 月 26 日　成田国際空港発 シカゴ ORD 着　シカゴ大学図書館訪問、シカゴ美術館視察
6 月 27 日　シカゴ公共図書館見学、ALA 会場視察
6 月 28 日　自由行動　ALA 展示会視察
　　シカゴからワシントンへ移動
6 月 29 日　米国議会図書館(LC)視察　スミソニアン航空宇宙博物館見学
6 月 30 日　ワシントンからニューヨークへ移動
　　ニューヨーク公共図書館見学　メトロポリタン美術館訪問
7 月 1 日　コロンビア大学図書館・イエール大学図書館訪問
7 月 2 日　ニューヨーク JFK 発
7 月 3 日　成田国際空港着

Ⅱ研修報告

8 日間の研修のうちシカゴ大学、コロンビア大学、イエール大学の 3 校について報告する。

①シカゴ大学

シカゴ空港到着後、直ちにシカゴ大学へ向かった。途中立ち寄った学内のブックストアでは、専門書・教科書はなく小説等の書籍のみ販売されていた。
図書館で、Nadler 館長、Vaughan 副館長、Zhou 東アジア図書館長、ほか日本人スタッフ 2 名の歓迎を受け、2 グループに分かれジョー＆リカ・マンスエト図書館と東アジア図書館を見学した後、図書館スタッフを加えて情報交換を行った。

＜大学概要＞

所在地	イリノイ州シカゴ市
学校種別	私立総合大学
大学創立年	1890年
学生数	約15,000人
教員数	約2,000人
Webページ	http://www.uchicago.edu

イリノイ州シカゴ市にある私立大学。
ノーベル賞受賞者を多数輩出している名門の大学。創立時より大学院教育・研究に重点が置かれており、15,000 名の学生のうち 10,000 名が大学院の学生。

A. ジョー＆リカ・マンスエト図書館（Joe and Rika Mansueto Library）

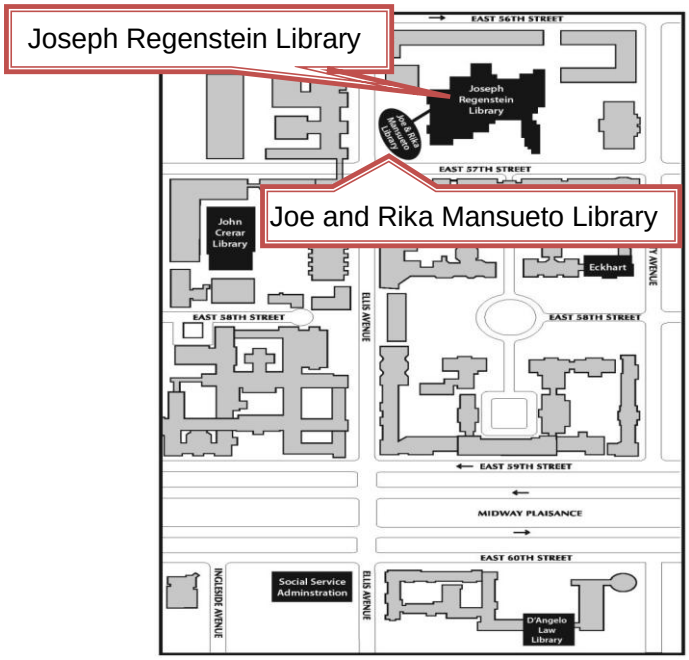


図 1　キャンパスマップ

卒業生であるジョー＆リカ・マンスエト夫妻の寄付により 2011 年に新設された図書館である。
キャンパス内の 6 つの図書館のうち、この図書館はジョセフ・レーゲンシュタイン図書館と隣接した場所にある（図 1）。
総工費は 8000 万ドルで、そのうち 2500 万ドルがマンスエト夫妻からの寄付である。
館内には書架はなく、資料は全て自動書庫に収蔵されている。蔵書数は約 50 万冊にのぼる。曜日によって利用時間は異なるが毎日開館している。

Ground Reading Floor

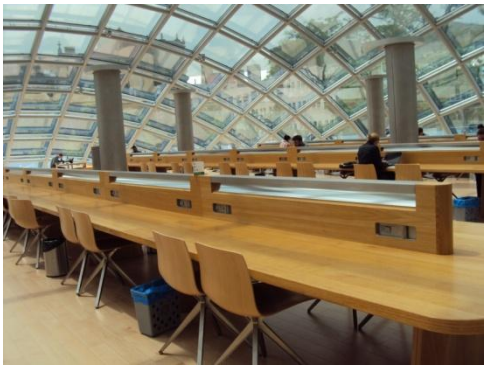
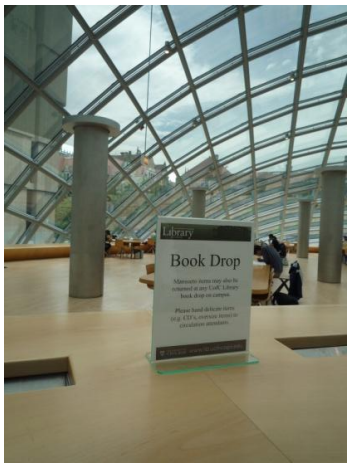


写真１　閲覧スペース

写真2　天井は全面ガラス張りで開放的

フロアは 180 もの閲覧席と維持・保護セクション、デジタル化セクションが配置され､閲覧室の真下には 350 万冊を収納できる自動書庫を設置している｡(写真 1)
館内は開放的な空間を多くとることで、時間の流れをゆるやかに感じさせ、ガラスから降り注ぐ光が明るい雰囲気をつくっていた。(写真 2)
夏季休業のため利用者はまばらだったが、このフロアは「Quiet Zone」であって学生はみな静かに勉強していた。



スッキリとしたカウンター周り

スタイリッシュな返却ポスト

Preservation / Digitization Room

維持・保存セクション、デジタル化セクションの人員は、専門スタッフ２名、プリザベーションスタッフ２名、アルバイト２名、インターン（夏季休業のみ）１名の計７名。

写真３　維持・保存スペース

写真４　修復作業風景

資料を日本和紙で修復している所を見学させてもらった。（写真 4）腐敗等により書籍の劣化が激しい資料は業者に依頼するとのこと。

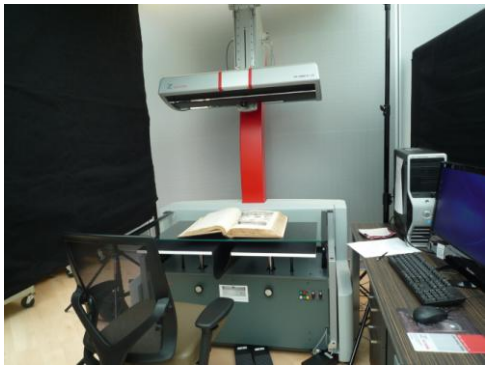


写真 5　スキャンし PC へ転送する装置

写真 6　Digitization Room

デジタル化のリクエストがあれば 4 日で提供している。スキャンに要する時間は 30 分。（写真 5-6）Google Books と提携し著作権の切れた資料をデジタル化し、毎月 1 万冊を公開している。

紙媒体と電子媒体が共存する環境の重要性について、図書館が持っている資料（書籍）をオンラインで検索可能にすることにより、実物資料アクセスへの要求の促進につながるとの説明を受けた。

Basement

写真 7　地下自動書庫

システムは DIMATIC 社製

写真 8　サイズごとに分類されたコンテナ

地下には約 350 万冊を収容できる自動書庫があるが、収容ケースの容量を有効に活用するため、本の著者名やジャンルではなく、サイズにより CRANE と呼ばれる単位に分けて収納される。また、自動書庫内の 1,200 の書架には 24,000 個のコンテナがあり、1 つのコンテナには約 100 冊収納できる。（写真 7-8）

地下資料の利用においてはWebでリクエストする。資料の検索、リクエストは、キャンパス内のどこの図書館からでも可能である。

リクエスト資料は、運ばれてきたコンテナの中からスタッフが抜き取り利用者に提供される。リクエストから提供までの所要時間は7～15分。

カウンター奥の事務室内に、「Dedicated CRANE 5」、「Random 15 in ML8」等と書かれた返却棚が設けられており、書籍は CRANE ごとに出納が行なわれている。

B．東アジア図書館（East Asian Library）

レーゲンシュタイン図書館外観

東アジア図書館入り口

東アジア図書館は、1950年にレーゲンシュタイン図書館5階に設立され、アジアの研究支援を行っている。

約80万冊の資料のうち、6割が中国の資料、3割が日本の資料であり、日本の書籍は一般書から専門書まで幅広く収蔵され、雑誌は1,500タイトル所蔵している。（写真9-10）その他、韓国語、モンゴル、チベット等の資料も所蔵している。

写真9　一般和書のコレクション棚

写真10　専門書も幅広く所蔵

東アジア図書館では、リクエスト資料の日本語論文を英訳し利用者に提供するサービスも実施している。ここを利用する学生は、研究のために日本の機関リポジトリにアクセスすることが多い。

C.　Lunch and Discussion

両館見学の後、Nadler 館長、Vaughan 副館長、Zhou 東アジア図書館長を交え図書館の今後の役割についてディスカッションを行った。（写真 11）

写真 11　ディスカッションの様子

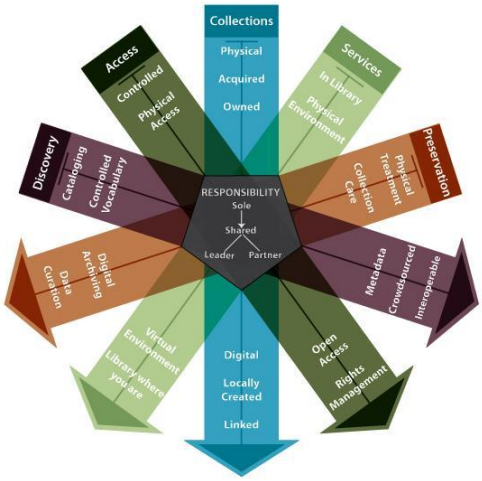


図 2　シカゴ大学図書館のコンセプト

ディスカッションで Nadler 館長は、これからの図書館は、資料の収集・保存（Collect）（図 2）といった従来の役割から、利用者が素早く有益な情報を得るための支援や他機関、その他の部門とパートナーシップを結んで連携（Connect）（図 2）していくことが重要となり、具体的には、選定やコレクションを構成する能力、分野ごとのスペシャリスト、テクノロジーと図書館業務を結びつける技術や能力を持ったライブラリアンを指していると話された。また、情報読解力を向上させるために図書館ではどんな学修支援を行っているか、という質問に対しては、図書館とは別に大学組織としてライティングセンターがあり、その組織の学生が積極的に支援を行っており、図書館が全面的に支援していないとの回答を得た。さらに、チャットによるレファレンスを実施しており、図書館員が交代で学生からの質問にチャット形式で回答していると説明された。

【感想】

シカゴ大学の見学・ディスカッションで多くの図書館スタッフとの情報交換を通してスペシャリストとしての仕事に対する意識の高さを感じた。また、コミュニケーションにおいても、人を引き付ける温かさには、魅力を感じ見習う点が多く有益であった。

日本の大学図書館においては、図書館員の専門性は継承しにくく、業務委託・人材派遣等でその専門性を何とか保っているというケースも少なくない。

図書館員がこれまで培ってきたスキルを活かせる環境の整備と、利用者や他機関との深い繋がり（Connect）についての課題も見えた研修 1 日目となった。

引用・参考文献：（図 1）シカゴ大学図書館　http://www.uchicago.edu/
（図 2）シカゴ大学図書館のコンセプト
http://www.lib.uchicago.edu/e/about/degrees.htmlより抜粋

②コロンビア大学

最終日はコロンビア大学内の図書館の中のロー記念図書館、バトラー図書館、サイエンスエンジニアリング図書館を見学した。

＜大学概要＞

所在地	ニューヨーク州ニューヨーク市
学校種別	私立総合大学
大学創立年	1754年
学生数	約28,000人
教員数	約3,600人
Webページ	http://library.columbia.edu/

写真１　ライオンの銅像

ニューヨーク州ニューヨーク市マンハッタン区にある私立大学。
アイビーリーグ校の一つで、ニューヨーク州では最古の歴史を持ち、King's College に従ってライオンと王冠がシンボルとなっている。（写真 1）
バラク・オバマ大統領もここの卒業生である。

A.　ロー記念図書館（Low Memorial Library）

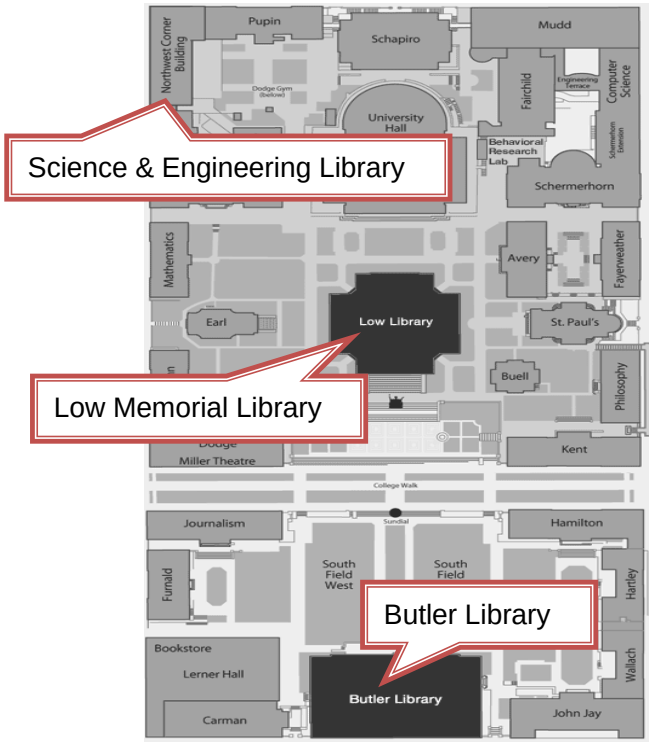


図１　キャンパスマップ

ロー記念図書館は、初代学長 Seth Low 氏を記念して名付けられた。

古代ギリシャの神殿を模して造られており、大理石造りのドームは米国最大規模である。（写真 2）

もともとは図書館であったが、本の増加により図書館機能を移転させたため現在は、ステージが用意されておりセレモニーホールとして使用されている。（写真 3）

１階が Visitors Center になっており、キャンパスマップやパンフレットが用意されている。

写真 2　ロー記念図書館外観

写真 3　セレモニーホール

写真 4　Alma Mater 像

ロー記念図書館の前には、大学のシンボルである Alma Mater 像が鎮座している。（写真 4）Alma Mater 像の隠れた「フクロウ」を新入生で最初に発見できた者は首席になれるという噂がある。

B．バトラー図書館（Butler Library）

写真 5　バトラー図書館外観

写真 6　正面入り口

コロンビア大学にある 20 館もの図書館の中でもバトラー図書館は最大規模であり、人文社会科学系を中心に 200 万冊を所蔵している。（写真 5）

図書館は 12 階構造でカフェが併設されており、飲食可能なエリアも設けられている。レファレンスルームでは、リサーチライブラリアンが質問を受付けるが、現在は主にチャットでの受付が多い。

学内には学習支援のための部署が設置されている。なかでも CCNMTL（ニューメディア教育学習センター）や DHC（デジタル人文科学センター）には、教材の作成を支援するスタッフが充実している。

写真 7　閲覧席

写真 8　記録写真の展示

閲覧席は、柱の間に設けられており、パーソナルな空間が保たれている。（写真7）

図書館は24時間開館しており、学生はいつでも利用可能。レイアウトや雰囲気が異なる閲覧席やグループ学習の部屋もあり、学生は学習スタイルに合わせて利用している。

バトラー図書館は、1934年にロー記念図書館の向かいに建設され、ロー記念図書館の全ての蔵書が移された。館内にはその当時の記録写真が展示されている。（写真8）

図書の運搬はすべて人力で行われており、当時の書籍移動の困難さを物語っている。

C．サイエンスエンジニアリング図書館（Science & Engineering Library）

写真 9
サイエンスエンジニアリング図書館外観

サイエンスエンジニアリング図書館は、2011年に開館した。（写真 9）
科学や生物学、物理学、天文学、心理学等の研究を支援するための環境を備えている。

ロー記念図書館やバトラー図書館の重厚な建築様式とは違い外観も近代的で図書館としては高層な建築である。

館内には、冊子による資料は少なく利用頻度の高い 1 万冊のみが配架されている。その他の資料は、プリンストン大学等と提携し共同保存されている。資料の利用申し込みは web で受付けており、リクエストされた資料は図書であれば 2～3 日で図書館に届けられ、論文であれば PDF で送信される。

閲覧席は約 300 席あり、授業や学習・研究を支援するためのソフトウェアを利用できる PC と周辺機器を備えている。（写真 10）

写真 10　PC と周辺機器を備えたデスク

写真 11　グループ学習エリア

当初1階は、グループ学習用のエリアとして計画されたが、個人で学習する人が多く、見学時も館内はとても静かであった。（写真11）
このエリアでディスカッション等をすると他の利用者から苦情が出るなど、本来の計画通りにはいかなかったとの説明を受けた。

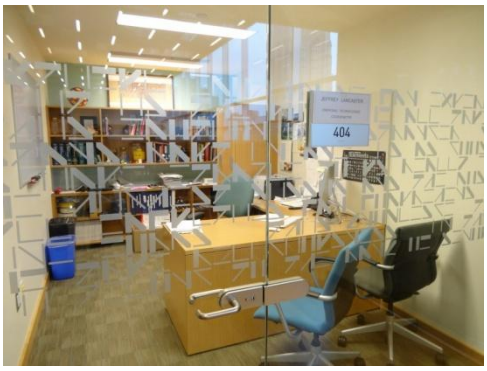


写真 12　スタッフルーム

各フロアには、随時相談やサービスを行えるよう、ライブラリアンや専門的なサポートをする学生スタッフが常駐している。(写真 12)
また、テクノロジーコーディネータの学生にも話しを聞くことができた。（写真 13）
コーディネータの Jeffrey さんは、司書資格はないが理工学の PhD.を保有しており、専門的な技術サポートを行っていると紹介があった。

写真 13　見学の様子

写真 14　デジタルサイネージ

館内のサイネージには、「Need Technology Help?」「Emerging Technologies Coordinator」の画面とともに、各コーディネータの紹介が流れている。（写真 14）
紹介内容はシンプルであったが、サイネージを使用したことによってインパクトのある広報が行われている。

館内における、ネット環境は十分整備されているが、今後 3D プリンタのサービス導入も予定されている。ライブラリアンのレファレンスサービスとコーディネータの学生による専門的なサポートがサイエンスエンジニアリング図書館の強みとなっている。

D．情報交換

見学後、図書館スタッフと次の 2 点について情報交換を行った。

1、外国雑誌の価格高騰について

現在コロンビア大学では図書館ごとに学術雑誌を購入しており、どこの図書館がどの学術雑誌を購読しているかの情報は共有されていないため、同じ学術雑誌を複数の館で購入している可能性がある。改善対策のため、現在新たに E-Book ライブラリアンを雇い、重複調査を行っている。

2、学修支援におけるチャットの利用について

シカゴ大学同様、チャットによるレファレンスサービスを行っているが、専門的な質問は少ないため、維持経費負担が大きい。

バトラー図書館を眺める Alma Mater 像

【感想】

短時間の見学ではあったが、コロンビア大学の歴史的背景や学生が有する特徴や図書館の魅力または課題を学ぶことができた。

さまざまな建造物・機関・文化が集まっているマンハッタンに大学が立地することは大きな特徴である。この環境が自由で開放的な雰囲気を作っている。

図書館は、学習や研究のための資料を提供する機能が基本であるが、ラーニング・コモンズのようなグループ学習・交流の場を、時間を問わず提供することで図書館の付加価値を高めている。しかし、併設されたカフェから飲みものを閲覧席に持って入る等マナーの問題や、チャットレファレンスにおける業務負担増の問題などもある。身近な問題から、学術雑誌高騰における大きな問題まで、抱えている課題は日本の図書館と共通するものも多いと感じた。

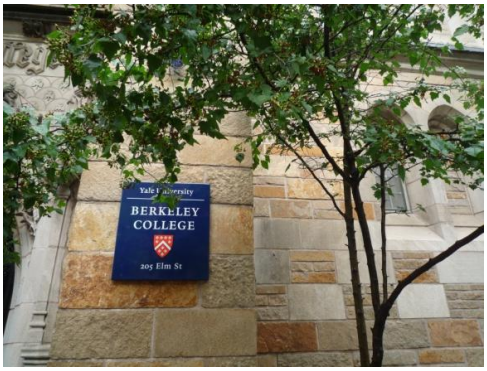
引用・参考文献：（図 1）コロンビア大学図書館　http://library.columbia.edu/

③イエール大学

当初ライブラリアンの方に図書館を案内してもらう予定であったが急遽対応不可となり、学生が行うキャンパスツアーでの見学となった。

＜大学概要＞

所在地	コネチカット州ニューヘイブン市
学校種別	私立総合大学
大学創立年	1701年
学生数	11,500人
Webページ	http://www.yale.edu/



Berkeley College（12 のカレッジの 1 つ）

コネチカット州ニューヘイブン市にある私立大学。米国で 3 番目に長い歴史を持つアイビーリーグの一校である。学部学生 5,400 人、大学院生 6,500 人。全寮制がとられており、学部学生は 12 のカレッジのいずれかに属する。

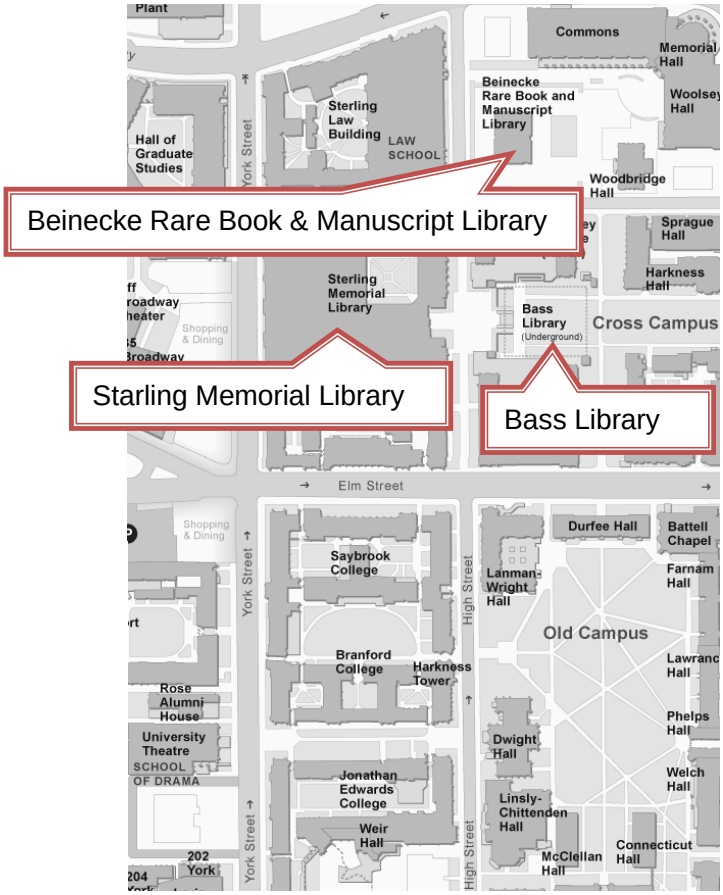


図 1　キャンパスマップ

学生が行うキャンパスツアーの様子

ブックストア

（キャンパスツアーに参加者には一部割引あり）

A．スターリング記念図書館（Starling Memorial Library）

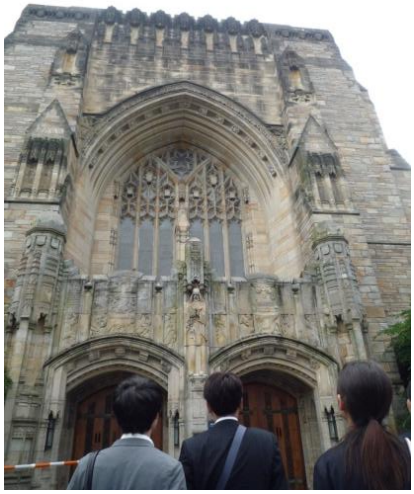


写真 1　改装中のスターリング図書館　　写真 2　外観

スターリング記念図書館は、訪問時は改装中で中は見学できなかったが、外観はゴシック調で大聖堂を思わせる荘厳な石造りである。(写真 1-2) この図書館は、全図書館所蔵数 1,200 万冊のうち 400 万冊を所蔵しており全米で 2 位の蔵書数を誇る。館内には、礼拝堂も整備されている。

B．バス図書館（Bass Library）

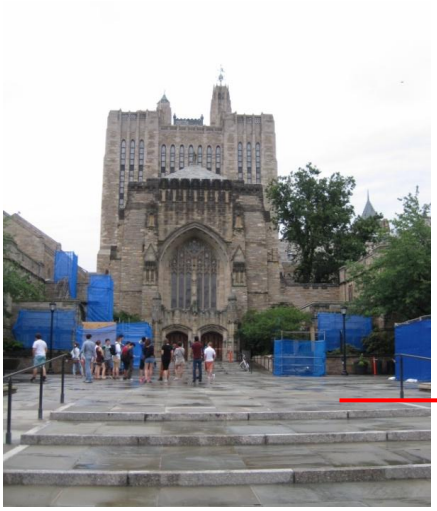


写真 4　地下部にバス図書館がある

写真 3　スターリング図書館正面前庭

バス図書館は地下にあり、スターリング記念図書館と繋がっている。
ちょうどスターリング書館の正面前庭と芝生の下に位置する。(写真 3-4)

バス図書館はラーニング・コモンズに特化した図書館で、個人・グループ学習室と PC 設備を備えている。テクノロジーセンターが同フロアに設置されているので、パソコンの操作等で困った時でも気軽に質問できる。

C．バイネッキ図書館（ Beinecke Rare Book & Manuscript Library）

写真 5　バイネッキ図書館外観

バイネッキ図書館は、1693 年にゴードン・バンシャフト氏によって設計された図書館であり、貴重書を中心に約 18 万冊を所蔵、また、地下書庫には 18 万冊収蔵可能である。

外壁は大理石でできており、マス目状のスタンプカードをモチーフにした窓のないモダンな建物である。（写真 5）

写真 6　カウンター

写真 7　ガラス張りの書架

入口から中に入るとカウンターがあり、その後ろにガラス張りの壁で囲われたタワー状の書棚がある。（写真6-7）この書架は6階建てで、館内のちょうど中央に位置する。シンプルな外観とは異なり、内部は大理石を透過した柔らかな光が幻想的な空間を作りだしている。

館内の様子

書架に整然と本が並ぶ

館内は、貴重書等を扱っているため、温度湿度が厳重に管理されている。資料は貸出はされていないが、学生と教職員は閲覧できる。

写真８　グーテンベルグ聖書

閲覧方法は資料の状態によって異なり、学生が直接触れる書籍と、スタッフがピンセットでページをめくる書籍等の資料がある。

所蔵する希少図書の中には、グーテンベルグ聖書や未だに解読ができていないヴォイニッチ手稿などがあり、常設展示されている。(写真 8)

常設展示の他にもギャラリー空間には、いくつかの企画展示が行われていた。ガラスケース内で展示中の資料はできるだけ多くの内容を見せるため、スタッフが毎日１枚ずつページをめくっているとのこと。(写真 9)

写真９　展示風景

館内の椅子はソファーのみ

【感想】

イエール大学では、図書館スタッフからの意見を聞くことができなかったこととスターリング記念図書館が改装中だったことが非常に残念であった。

バイネッキ図書館では、未だ解読できない古文書や世界的に貴重な資料を所蔵しており、文化遺産の保存や発信において図書館が大きく貢献している。また、今回訪問した他の図書館と違い、運営スタッフは図書館員のみであり、コレクション構築においても専門的知識を持った館員が重要なポジションを担っている。日本の大学図書館において、人員を充実させていくということは大きな課題であると感じた。

引用・参考文献：(図 1) イエール大学図書館　http://web.library.yale.edu/

④その他

A.　ALA 総会

オープニングセレモニーの様子

多くの参加者で溢れる展示ブース

ALA 総会は､6 月 27 日～7 月 2 日にシカゴ･マコミックセンターで開催された。研修日程の都合上、十分に展示会場を見ることがでなかったが、データベースや電子書籍紹介など多数の展示ブースがあり、多くの参加者で溢れていた。また、バンドの生演奏もあり会場はとても賑やかであった。

その他、今回の研修のためだけに、ALA（American Library Association）・ARL(The Association of Research Libraries)とのディスカッションを設けていただいた。ALAディレクターMichael Dowling氏からは、米国の学術図書館のトレンドをテーマにラーニング・コモンズ、SNS、e-Book、3Dプリンタなどの身近なものから、デジタル資料を広く公開するプロジェクト（DPLA:New-Digital Public Library of America）や、利用者のニーズを把握して書籍を購入する仕組み（DDA：Demand-Driven Acquisition）など、先進的な取り組みについて紹介があった。

ARL Gary Roebuck氏からは、図書館からの要求を受けて調査を代行し、分析して提供する「Libqual」と呼ばれる図書館アンケートの導入事例について説明があった。

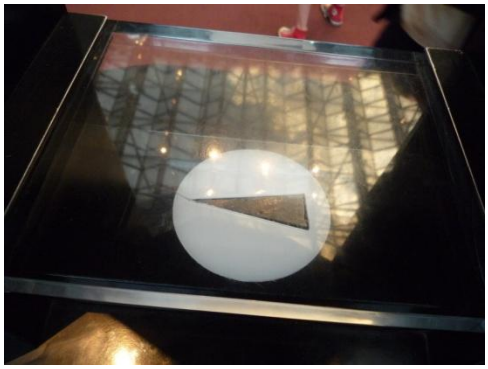
B．米国議会図書館(LC)　トーマスジェファーソン館

米国議会図書館(LC) 外観

見学ツアーの様子

トーマスジェファーソン館は、ワシントン DC キャピトルヒルにある米国議会図書館のうちの一つで、1897 年に開館した図書館である。最初に館内案内のビデオを視聴し、その後 10 人程度のグループに分かれ見学ツアーに参加した。1 階の大ホールには、グーテンベルグ聖書やマインツ聖書などが公開展示されていた。主閲覧室は、残念ながら撮影不可であったが、身分証とはっきりとした研究目的があれば資料の閲覧は可能である。館内は天井一面にローマ神話の文明をモチーフにした絵画が装飾されており、華やかであった。

C．スミソニアン博物館



アポロ 17 号が持ち帰った月の石

航空宇宙博物館内

スミソニアン博物館には、航空宇宙博物館、自然史博物館、歴史博物館、美術館、動物園などの機関が属する。ここは自由時間であったため、日本人の現地ガイドの方の案内により航空宇宙博物館を見学した。ライト兄弟の「ライトフライヤー号」やリンドバーグが大西洋を横断に成功した「スピリット・オブ・セントルイス号」などの飛行機やアポロ 17 号が月から採取した月の石などが展示されていた。

D．ニューヨーク公共図書館

ニューヨーク公共図書館外観

メイン閲覧室

ニューヨーク公共図書館は、公共図書館としては世界屈指の規模を誇る図書館である。入り口にいる二対のライオンは、Patience（忍耐）と Fortitude（不屈の精神）を表している。メイン閲覧室は約 600 席あり、著作権の切れた資料はデジ

タル化されインターネットで自由に閲覧できる。見学した日は日曜日であったため利用者が多かったが、閲覧席は静粛が保たれていた。

謝辞

8 日間という短い期間ではありましたが、研修を提供してくださった丸善株式会社ならびに関係スタッフの皆様にこの場を借りて感謝を申し上げます。また、図書館の見学だけでなく、訪問先大学のライブラリアンをはじめ ALA ディレクター Michael Dowling 氏、ARL Gary Roebuck 氏など様々な立場の方から貴重なお話しを伺うことができ、有意義な研修となりました。その中でも、特に、シカゴ大学館長とのディスカッションで図書館の役割についてお話いただいた Collect から Connect へというキーワードが印象に残っています。図書館は、従来の役割である資料の収集・保存といった Collect から、利用者が素早く有益な情報を得るための支援と他の機関との連携 Connect をしていくことが今後重要となることを学びました。また、どの大学もチャットによるレファレンスを行っており、レファレンスの幅を広げることにより図書館がより活用されていました。その他、現場で役立つ広報や空間作りのヒントもたくさんあり、今後の業務改善の参考にさせていただきます。

今回の研修への参加は、2012 年度に開催された私立大学図書館協会研究大会内で、海外派遣研修と海外集合研修の報告を聴いたのがきっかけであり、そこで受けた刺激が動機となりました。今後もこのような研修プログラムを継続いただきたいと願っています。

最後に、期間中参加者をまとめてくださった丸善株式会社の矢野正也様をはじめ、初対面にもかかわらずすぐにうちとけて研修をより活気づけてくださった研修参加者の皆様、そして私を快く送り出し不在の間の業務をカバーしてくださった職場の皆様に心からお礼を申し上げます。